

～ 第6次留萌市総合計画意見交換会 ～

【開催概要】

- 平成28年7月22日（金） 10:00～10:50
- J A南留萌会議室

【出席者】

- 農協：太田参事、伊藤農業振興部長
- 委員：伊端座長、大館副座長
- 市：佐々木政策調整課主幹、江川政策調整課主査

【資料】

第6次総合計画市民会議(案)たたき台及びパワーポイント印刷資料

【内容】

- ① 座長挨拶
- ② 市民会議案説明
- ③ 意見交換
 - 新規就業者のみならず農協職員すら採用申し込みが無い。高卒採用枠と同数の申込みであり、採用の選択ができない。
 - 幌糠のハウス、農業支援は、モデル事業であるが人材確保が課題。
 - 子どもが減少する中で、魅力ある職場づくりが必要。Uターン希望者もいるのかどうか分からない。情報が無い。
 - 高齢による離職が進んでいる状況。作る喜び、就農に向けた体験、人の受入を考えていかなければならない。
 - 農繁期の人材確保も困難になってきている。本人の高齢化とともに、これまでの人材も高齢化。
 - 人材派遣制度、会社を設立できないか。農業分野だけでは通年雇用にならない。水産業などいろいろな業種に渡ることで、通年で仕事を確保し人材を確保。出資することが可能になる。農業者負担の増額は難しい状況にはある。行政のバックアップ必要。
 - 個人、法人ともに発信力が無い。束ねることで力が増す。
 - いきなり新規就農は難しい。短期間でも結果に繋がらないと思うが、体験から将来的に就農の道を導いて行ければいい。
 - 農業や他分野の仕事量の把握とマッチング機能を誰かがやらなければならないが、スタートは行政にお願いしたいところ。
 - 留萌の農業法人も高齢化している。ハローワークに出しているが、見つからない。雇用条件なのか。